

0から始めるiアプリ(3)

iアプリを作れるようになったならば次は公開です。

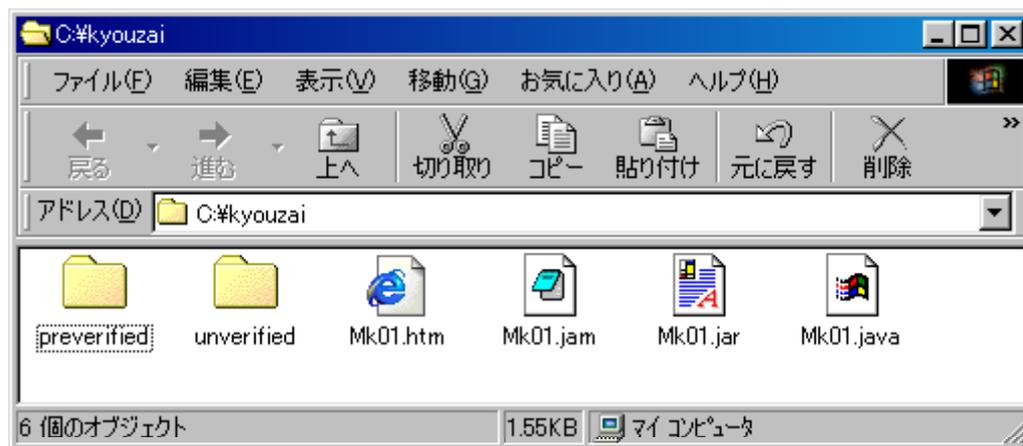
iアプリでは前述したように、たとえエミュレータで動作確認ができたからといって実機のテストを怠ってはいけません。

実機での処理速度、発色、プログラム等の耐性をチェックしなければなりません。

実機でのテストでは外部のサーバーに接続して、各ファイルをアップロードしなくてはなりません。

1. 送信するファイルを確認する

エミュレータで動作確認をした前節のiアプリでは次のようなファイルが生成されているはずです。



フォルダ例

| | |
|-----------|---|
| Mk01.htm | iモードでアクセスするためのホームページファイル。ダウンロードのためのタグ(命令)が記述されている。 |
| Mk01.jam | ADFと呼ばれるiアプリ設定ファイル。まずホームページからこのファイルを読み、それにもとづいて、iアプリ本体(jarファイル)を読み込む。 なお、P503iだけは記述が変わるので注意(後述の4月問題)。 |
| Mk01.jar | iアプリ本体。このファイルを503iシリーズで実行するとiアプリが実行される。 ゲームなどのキャラクタの画像ファイルやBGMなどのファイルも同梱された形で圧縮されている。 jarファイルになった時点でそれらのデータファイルは同梱され、圧縮されるので、ホームページなどと違い、使用している画像ファイルやサウンドファイルなどはアップロードしなくとも良い。 |
| Mk01.java | 開発時に記述されるもとファイル。このファイルをビルドして、jarファイルに変換している。 したがって、ソースを保存しておきたいときは、このファイルを別なフォルダに保存(移動)しておく必要がある。 アップロードはしなくとも良い。 |
| フォルダ | プリーベリファイなど、特定の処理実行時に一旦ファイルがおかれる場所。 とくに、アップロードはしない。 |

htmファイルと、jamファイルはテキストモードで、jarファイルはバイナリーモードでFTPサーバーにアップロードします。

※ファイル名は例です。～.htm ～.jam ～.jar というファイルが3つあればOKです。

2. FTPサーバーへアップロードする

iアプリなどのデータをサーバーへ転送することをアップロードといいます。

iアプリの場合は、不特定多数の人がインターネットからアクセスできるWebサーバーへアップロードすることになります。一般的にはWebサーバーを設置してあるプロバイダのFTPサーバーへ先ほどの3つのファイルを転送することになります。

本節ではファイル転送ソフトには、フリーソフトで著名なSota(曾田)氏制作のフリーソフトであるFFFTP ver1.80を利用します。

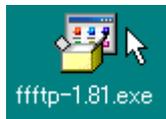
なお、本ソフトは次のサイトにあります。

<http://www2.biglobe.ne.jp/~sota/>

【FTPユーザー情報】

FTPアカウント g1
FTPパスワード abcd
FTPサーバー <ftp.kyouzai.cc.jp>

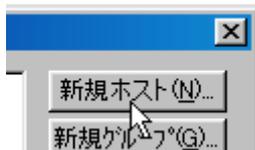
①ダウンロードしたFFFTPのインストールファイルをダブルクリックします。



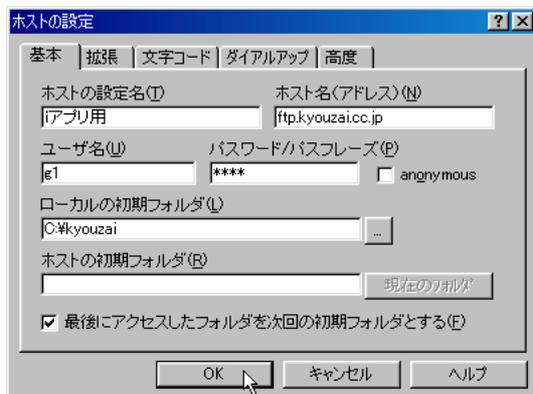
②[次へ]→[次へ]→[次へ]→[次へ]をクリックする。

(インストールが完了すると自動的にFFFTPが起動します。すでにインストールしてある場合は、[スタート]→[プログラム]→[FFFTP]→[FFFTP]を選んでください。)

③[新規ホスト]ボタンをクリックします。

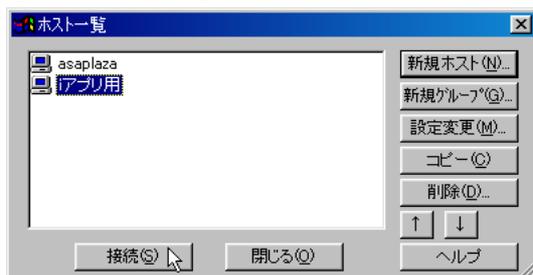


④上記の設定を入力し、残りは次を参考に入力し、[OK]ボタンを入力します。

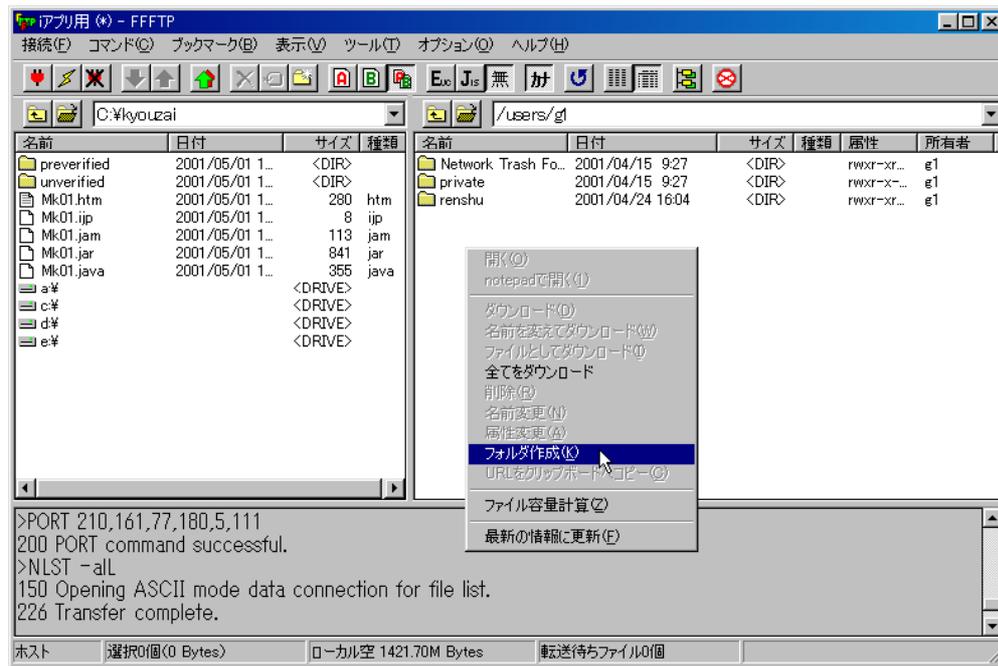


(iアプリ用というアイコンが作成されます)

⑤[接続]ボタンをクリックします。

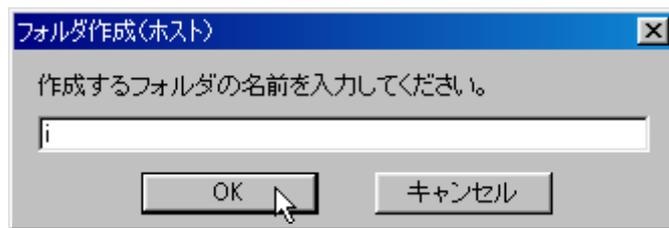


⑥ 右側の白い部分で右クリックし、[フォルダ作成]を選びます。



(すでにFTPサーバーへはアクセスがされています)

⑦ 直接入力モードで、小文字で「i」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



(iフォルダが作成されます)



⑧ iフォルダをダブルクリックします。

(iフォルダが開きます。iフォルダはまだ何も入っていないので、空の状態です。)

⑨ [CTRL]キーを押したまま、転送する3つのファイルをクリックします。

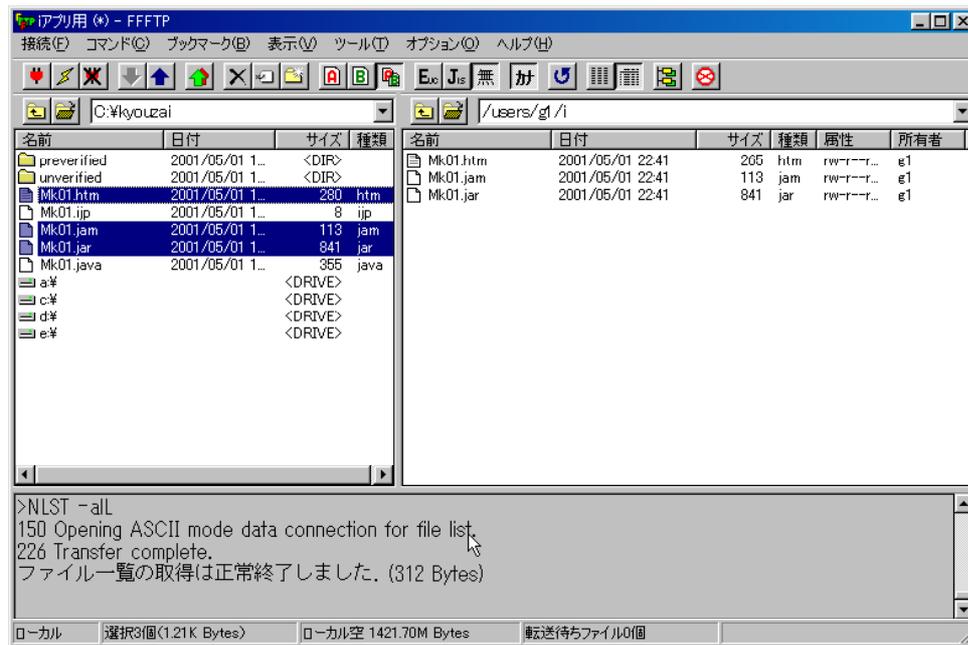


⑩ アップロードボタンをクリックします。



(転送がはじまります)

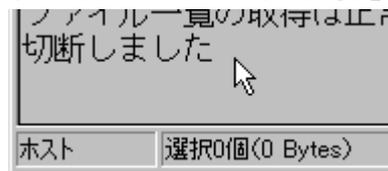
(転送完了後、空だった右側のiフォルダに3つファイルがリストアップされます)



⑪ [切断]ボタンをクリックします。



(FTPサーバーへのアクセス状態が解除されます。)



⑫ [×]ボタンをクリックし、FFFTPを終了します。

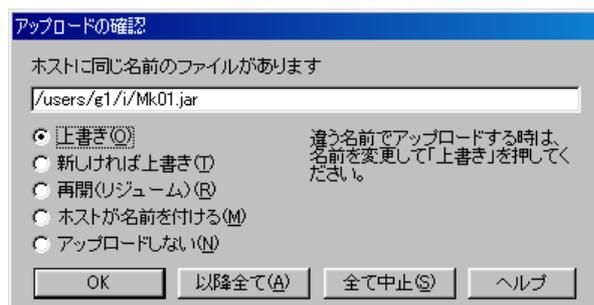
【ワンポイント】アップロードはコピー

FTPソフトを使うと簡単にサーバーへファイルを転送できます。

しかし、例えば、フロッピーディスクでは、その中にあるアイコンをダブルクリックしてファイルを開き、修正などをして、上書き保存が直接行えますが、FTPサーバーではそのようなことはできません。直接開いたりすることはできないのです。

したがって、サーバーへ転送したファイルを修正したい場合には、一度、自分のパソコン内にダウンロードするか、もしくは、転送後パソコンに残ったファイルを使うか等して、修正・上書き保存後、再びFTPサーバーに転送することになります。

その際には上書きをして転送をします。



3. 実機にダウンロードし実行確認する

それでは、早速実機にダウンロードして、iアプリを実行・確認してみましょう。

① 実機で先ほどアップロードしたサイトに、アクセスします。



→



② ダウンロードをクリックします。(iアプリ開発ツールで自動的に作られた～.htmファイルです)



→



③ ダウンロード完了後、ソフト一覧画面が表示されますので、[決定]ボタンを押します。



(Hello!PCが表示されてます！)



※ 終了は[HLD(通話を切る)]ボタンを押すと終了します。



【ワンポイント】Pの4月問題

P503iには開発中のバグがあります。

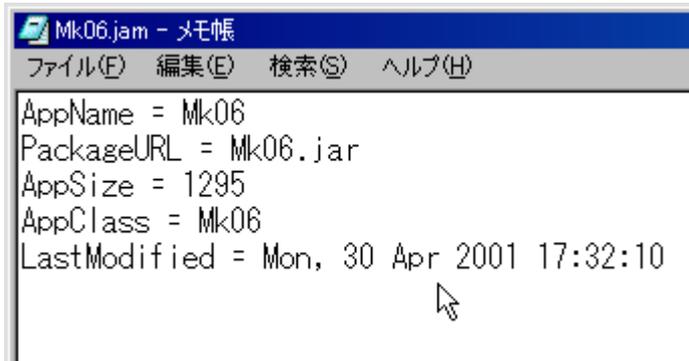
ADFファイル(～.jamファイル)の記述をほかの機種とは変えないと、エラーになってしまうのです。

ADFファイル内に最終更新日を記述する行があるのですが、そこで、通常は4月をAprと表記するのですが、Pではそのままではエラーになってしまうのです。

そこで、Pだけは、AprをAplと記述して、アップロードしてください。

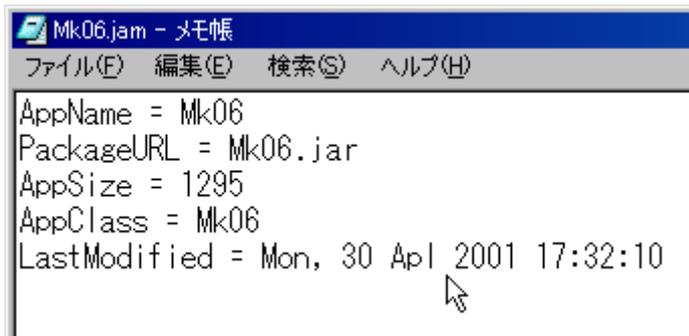
なお、これは5月など他の月では現在はまだ発生はしないようです。

【Pではダウンロードできない記述】



```
Mk06.jam - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 検索(S) ヘルプ(H)
AppName = Mk06
PackageURL = Mk06.jar
AppSize = 1295
AppClass = Mk06
LastModified = Mon, 30 Apr 2001 17:32:10
```

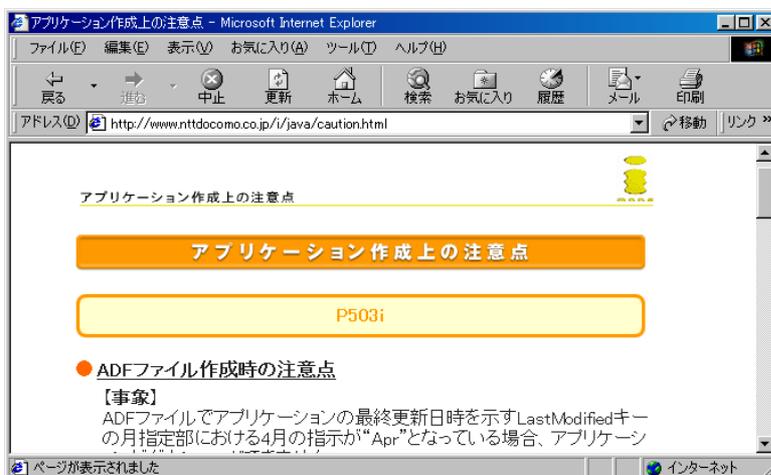
【修正後】P503i用



```
Mk06.jam - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 検索(S) ヘルプ(H)
AppName = Mk06
PackageURL = Mk06.jar
AppSize = 1295
AppClass = Mk06
LastModified = Mon, 30 Apl 2001 17:32:10
```

P用のADFファイルを作る、という現実的な回避方法といえます。

これ以外にも時間がたつにつれていろいろな機種ごとの不具合(SOなどでも不具合がホームページにて報告されています)が発見されています。最も早いのはメーリングリストですが、NTTドコモのサイトにも解決方法はみることができます。



<http://www.nttdocomo.co.jp/i/java/caution.html>